御船橋（おふなばし）

江戸時代、河川に橋を掛けることは江戸防衛の観点から制限されていた。しかし、将軍の鹿狩り（軍事教練）や日光墓参など必要な時には、船を並べてその上に筵（むしろ）などを重ねて道を造り、仮の橋としたことがあった。それが、「御船橋」である。御船橋建設は、近隣の村々にとっては使役や上納の負担を伴うものであった。

江戸川にも、金町（江戸東京）と松戸（下総千葉）との間に御船橋が掛けられた。高梨家では、嘉永二年（1849）の鹿狩りに際し造営を命じられたことから、虎綱が残されている。虎綱は、並べられた船を岸へ繋ぐ太い綱である。半年ほどの工期に耐えるよう、水に強い檜材で作られている。檜は水に漬かるとキュッと引き締まり、大変丈夫になるので川の仕事に用いられた。

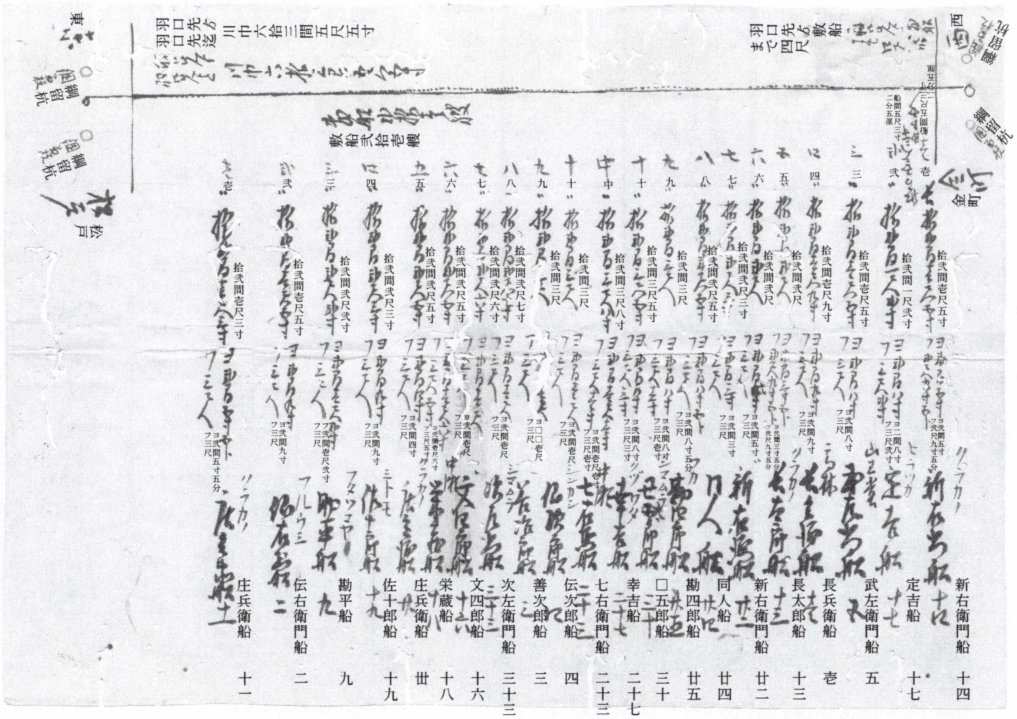
この虎綱は、檜を薄く細長く削いで細い桧綱を作り、これを30本撚り合わせて直径16cmの太い綱にしてある。野田市郷土博物館に半分寄贈した為、現存長24m、重100kg。大門の二階南側の壁に沿って吊り下げ伝世した。全体に、白土が指の跡が残るほど強くしっかり塗り付けられているため、非常に保存状態がよい。

松戸宿圖繪

御船橋
長七拾三四間
横三間余
御船数
二拾一二艘
御船繋杭
五尺七八寸廻リ
御碇七八拾挺
二十四五貫目ヨリ
九十貫目余
御鎖リ左右引
貫目積リカタシ
御石俵
数多ニテ積カタシ
檜御綱
何レモ一尺五六寸廻リ
虎御杭
七尺廻リ位
芥除御杭
五尺余
檜御綱
七八十間
虎御杭
長九拾間余
嘉永二己酉年
三月

まつどじゅくずえ

おふなばし
長さ　73～74間
（132.7～134.5m）
横　3間あまり（5.5m）
おふなかず
21～22艘
おふねつなぎくい
周囲5尺7～8寸
（1.7～1.8m）
おんいかり 70～80ちょう
24、25貫目～90貫目あまり
（90～337.5kg）
おんくさりさゆうひき
かんめつもりかたし
おんいしだわら
あまたにてつもりかたし
ひのきおんつな
いずれも周囲一尺5～6寸
（45～48.5cm）
とらおんくい
周囲7尺（212.1cm）位
あくたよけおんくい
5尺（151.5cm）余り
ひのきおんつな
70～80間
（127.3～145.4m）
とらおんくい
長さ90間（163.6m）余り
かえい2つちのととり ねん 3がつ



⇧高梨家には寸法や供出された船について記された図面が残されている。